



聖書箇所：詩篇32篇1~11節
「主を喜び 楽しめ」

【1】 幸い

- ・「幸いな人」とは？

- ・人間の罪の三つの側面
 - ① 「背き」(1節)
 - ② 「罪」(1節)
 - ③ 「咎」(2節)

- ・詩篇作者の語る「幸いな人」=すべての罪が赦された人

【2】 悲しみ

- ・悔い改めるのは至難の業？

- ・悔い改めに至っていない状態とは (詩篇32:3-4)
 - ① 罪悪感によって良心が抑圧されうめき声をあげている状態
 - ② 心の中に罪悪感を閉じ込めておくため心身が衰弱していく状態
 - ③ 神との交わりが重荷となっている状態

▷聖書は、人が自分の罪を隠してそこから逃れるため黙っていると、平安を失い、それが耐え難い重荷となり、そして心身が蝕まれていくと語ります。

【3】 喜び

- ・神の赦しの経験
 - ① 耐え難い重荷からの解放
 - ② 砂漠に泉がわくような心の喜び

- ・神の敬虔な人への約束 (参照詩篇32:6-7)
 - 神は祈る者には応え、苦しみから守り、救いの歓声で取り囲んで下さる

▷私たちも「主を喜び 楽しむ」幸いな人生を送ることができますように。

「もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」(1ヨハネ 1:8-9)